

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能 書写ひまわりホーム
所在地	(〒 671 - 2201) 姫路市書写 634-50		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護という言葉が頭に付く事業所として、より医療ニーズの高い利用者様を受け入れることを目指しています。
長引くコロナ禍の影響で、入院されると面会が不可となりそうした中お亡くなりになる方々を見聞きすると、一層看護小規模多機能事業所の存在意義を感じています。世間一般にはまだまだ「看護小規模多機能」が持つ利便性であったり、サービスの具体的な内容が周知されていない状況がありますので、広く地域社会に向けて開かれた事業所情報を発信することにも取り組みを進めたいと考えています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 3 月 18 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 3 月 25 日	出席人数 (合計)	(6) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (〃 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人)			

	□利用者（ ____人）	□利用者の家族（ ____1__人）	□知見を有する者（ ____1__人）	□その他（ ____1__人）
--	--------------	--------------------	---------------------	-----------------

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	職員一人ひとりの意識を高め、統一されたサービス提供体制を構築する。 目標についての達成度を図るための振り返りについて具体的な方法等を決定する。	月1度の会議においてサービス内容を毎回確認した。職員間で意見交換をする中で様々な視点が見られるようになり多様な支援方法に取り組む姿勢が構築出来つつある。	徐々にではあるものの、意識の高まりを実感している。気を抜くと後退するのは早い為、継続することに重点を置いて取り組みたい。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	毎月の会議において担当職員を決め、テーマに沿った研修会を実施し、専門的な知識の取得に努める。	受け身での学びから主体的に取り組む姿勢に変化が見られたことが成果であった。一層の全身を目指して取り組みを継続する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	主に主治医との関係構築に取り組んだ。加えて地域包括支援センター等とも交流を深めネットワークを拡げる。	交流の輪を広げることで看護小規模多機能の役割、持っている能力の発信に繋がったと感じる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	地域との繋がりを持つ目的で行事等に参加し、信頼関係を構築する。 緊急時対応の体制を整備する。	コロナ禍の影響で行事等への参加は叶わなかった。今後はオンラインで実施できるようなものを模索する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看護小規模多機能事業所知ってもらう為の試みを行う。また、各種の研修会等にも積極的に参加する。	小規模多機能事業所連絡会をはじめ、県や市主催の研修会に参加した。特に事業所数が少ない看護小規模多機能事業所の交流での情報交換は有意義であった。	事業所としてはまだまだ未熟な部分が多く、周囲からの期待値に届いていない。医療ニーズの高い利用者への対応を充実させ、地域に認知されたい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	職員一人ひとりの意識は高まっているものの、多岐にわたる業務には高度な専門性が必要で、今後の課題である。	これまでも取り組んでいるが、テーマを決めて研修会は毎月実施する。特に経験の浅い職員の悩みや困りごとに対応できるよう、研修テーマについての希望を聞き取りしたいと考えている。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	認知症をはじめとしたさまざまな疾病についての研修は特に有益であった。利用者が抱えておられる困りごとの原因が何処にあるのかを考えることが、有効な支援の在り方の基礎となることが理解出来た。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	病院、主治医との連携については書類の提出をはじめとして一定のシステムを構築することが出来ている。確実な連絡体制を他の機関とも早急に取り決めたいと考えている。	互いに忙しい中で確実に連絡を取り合うには、素早いメール送信や FAX 等を使用することであろう。事業所全員に連絡時のルールの遵守が徹底できるよう、取り組みたい。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	看多機に求められる利便性や責務について成果が得られている。より一層、医療ニーズの高い利用者様の在宅生活の支援において力を発揮できる体制を作りたい。	コロナ感染拡大の影響で、具体的な活動に大きな制限があった1年であった。今後も、早急な改善は期待薄であるため、現状が当たり前であるという認識の下、新たな方法を検討する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	経験値が低く、十分なサービスが提供出来ているのか手探りな中ではあるが、他事業所ともしっかりと情報交換を行いながら、事業所のレベルを上げていきたい。	地域密着型サービスの事業内容についての世間の認知度は低めである為、より一層、情報の公開に努める。運営推進会議への参加者を広く募り、看護小規模多機能の特性を発信することに注力する。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		10	3		施設長の考え方、指導方針が明確でわかりやすい。その為、職員一人ひとりへの伝達がしっかりと行えている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		10	3		新しく看護小規模多機能事業所の職員となった者に対して、如何に理念を浸透することが出来るのかが問われるのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	2	8	3		研修で得た成果等を周囲にも「見える化」することでより一層、職員のモチベーションが上がるのではないかと期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 定例の会議において、交互に講師を務めるシステムとした。今では定着し、職員の励みとなっている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	2	8	3		学びに終わりはない。引き続き、実直な取り組みに期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 各種の委員会での研修会の実施をはじめ、研修内容は充実している。外部の研修会にも積極的に参加している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	4	8	1		情報の共有は確実に進んで欲しい。「不十分であった」等の言葉を謝罪時の言い訳にしないようにしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 会議や朝礼、定期の申し送りでの情報の伝達を行っている。より精度の高い伝達について検討している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	1	5	7		<p>コロナの現状では仕方ない。エッセンシャルワーカーとしての活躍に期待している。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2カ月に1度のペースで会議を実施しているが、コロナ感染拡大の影響で中止となることが増えている。報告書を準備し、いつでも助言が得られるようにしている。</p>	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	5	8			<p>挨拶がきちんと出来ていることで事業所のレベルがわかる。新人職員の教育にも注力して欲しい。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> スタッフの意見には可能な限り耳を傾けている。改善案等の進言については、皆にオープンにして意見徴収を心掛けている。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	5	7	1	<p>情報が外部に漏れないような取り組みに力を入れて欲しい。パソコンもセキュリティがしっかりしたものにして欲しい。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の変化については申し送りにて即座に対応している。モレがない様、申し送りノートを活用し、確実に伝達できる体制としている。</p>	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します	
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	5	7	1	<p>事業を長く継続するためには、安全、安心が必須である。信頼を得る為にも、詳細な情報公開が望ましい。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主に事故については防止委員会を設け事故の状況、原因、改善事項を細かく分析することとし、再発の防止に努めている。</p>	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	3	8	2		昨今の異常気象の様子を踏まえ、災害訓練には真摯に取り組んで欲しい。利用者の命を守る砦として期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 災害発生時マニュアルを随時更新し、最新版を常時備えている。定期的に訓練も実施し、実行力を高めている。					
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	4	7	2		高齢者の365日を支援することはとても大変なことだと思うが、本人や家族の思いをよく汲み取って頑張っている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 家族への聞き取りを中心に対応している。在宅生活を中心に据え、質の高い支援が提供できる情報分析に努める必要がある。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	5	7	1		<p>普段のコミュニケーションを大切に良好な職員関係を築くことが出来れば、情報共有もスムーズにできるのではないかと。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	5	7	1		<p>家族は施設の介護力に頼っている。その信頼に十分応えることが出来るよう努力して欲しい。地域の期待も背負っていることを忘れないで欲しい。</p>	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	4	8	1		<p>介護と看護の協力体制を整えた上で、実行力を持った計画を作成して欲しい。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	3	8	2		専門性の高い分野であり素人が理解しにくい場面が多く見られると想像できる。わかりやすく、簡潔な説明を求めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 予後についての説明は極力主治医に任せるようにしている。看護師が間に入る際には、誤解が生じないように留意している。医療ニーズの低い利用者への対応は今後課題が多い。					
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	3	8	2		ケアマネの能力向上に努め、利用者、支援者双方の良好な関係性の構築に期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 会議の議題とすることで多くの視点を持ってアセスメント出来るように努めている。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	2	8	3		在宅生活が原則であることを伝えながら、家族の要望との調整を試みて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> レスパイトの意味での利用時間の延長が常態化している。事業所としても悩んでいる項目である。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		家族との密な相談が必要であると考えている。					握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	4	6	3		利用者の心身に渡る変化を適宜連絡し、即応することに注力することが大切である。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医との連携については主にケアマネ、看護職が担当し、無駄のないやり取りが出来る体制をつくる努力をしている。メール、FAX を有効に活用しながら確実な連絡を心掛けている。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	4	6	3		互いの専門性を理解して、共同作業が円滑に進むよう取り組みを進めて欲しい。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 同じフロアで業務に当たっており、意思疎通は十分に行えている。それぞれの役割を自覚し、負担が偏ることのない業務分担を目指している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	6	6	1		介護で重要とされるチームケアの精神を大切にしながら、利用者の対応を行って欲しい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> リアルタイムでの情報交換を重視し業務を行っている。多様な視点からのアプローチを試みる体制作り注力している。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	4	7	2		「看護師の配置が厚い」という特性を生かした事業運営を継続して欲しい。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師用の申し送りノートを活用し、分かりやすい情報共有に努めている。風通しの良い雰囲気を作ることで、素早く伝達できる風土を作っている。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	7	2		適度な距離感を保ちつつ、利用者一人ひとりにじっくり向き合った対応を期待している。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 大きな問題も発生することなく推移している。家族のみならず、認知症が見られる利用者にも丁寧に説明したい。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	9	2		普段の行いが利用者や家族からの信頼につながる為、地道ではあるが確実な支援が求められる。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 個別性、主体性を最大限に尊重することを重視している。利用者様への説明にはより丁寧さを加えたいと考えている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	7	5		常に最新の情報を取得し、他事業所に後れを取らないように対応してもらいたい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 日常生活上の留意点は細かく説明している。不測の事態に備えての対処法について今後、取り組みを進める。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	3	8	2		小規模であることの強みを発揮し、きめ細やかな対応で利用者及び家族の満足度を上げて欲しい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用者の主訴には絶えず耳を傾ける姿勢を徹底している。家族と本人の要望のズレが発生した場合の調整役としての役割に力を発揮出来るよう努めたい。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	4	7	2		臨機応変に対応してもらうことを期待している。状態の変化については可能な限り早期に気づき、予後対応の説明をお願いしたい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の状態変化を的確に判断する力を付け、予後も含め早期に相談、検討出来る体制をつくる。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	6	2		終末期は家族の精神的なケアも必要とされる。本人、家族にしっかり寄り添う姿勢を期待している。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医、看護師を中心に対応している。経過について正確に記録に残し、振り返りが出来る体制にしている。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	5	6	2		コロナ禍において、カンファレンスは実際のところ参加できていないようだが、新たな取り組みで対応してもらいたい。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院の地域連携室との連携に注力している。サマリーを遅滞なく送付することで、退院時のカンファレンスの参加に繋がっている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	2	8	3		看護師においては不安感がないが、不在時の対応はどうするのか、検討しておくことが必要と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 指示書が入手出来ている利用者については相談が出来ている。一方、指示書がない方への対応について一部、不安要素があり、今後の大きな課題と考えている。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	2	8	3		急変時はミスが多く発生することが考えられるため、事前の備えが大切であると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 協力病院は確保している。有事に際しては都度、主治医や病院と対応を協議しながら行っている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考え	2	8	3			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	られる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議には地域包括支援センターのケアマネにも参加いただき、地域との繋がりを継続して保つことが出来るよう配慮している。				地域包括支援センターを上手く活用して、地域との連携を深めて欲しい。	一マルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることが出来るような方法での情報発信が、迅速に行われている	1	9	3	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 過去の議事録はファイリングしており閲覧可能な状態にしている。しかし、職員が手にしている場面は見たことが無く今後の課題と言える。	会議の内容を全職員が共有していなければ意味が無い。内容を把握できる体制を作ることが肝要であると言える。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について	1	9	3		社会情勢を考慮すると仕方ない部分であろうと思う。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	て、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主に「ひまわり日記」という媒体を使用して、施設の取り組み内容については発信している。コロナが落ち着いた時点で他の取り組みも進めたい。				終息後にはよりオープンに情報を発信して欲しい。	✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする	3	8	2		常時、吸引を必要とする利	✓ 「積極的な受け入れ」について、

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている					<p>用者を受け入れる事業所として体制が整えられることを望む。</p>	<p>充足度を評価してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>1</u>	<u>8</u>	<u>3</u>		<p>いろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>24時間体制までの対応とはなっていない。現状、吸引を必要とする利用者を受け入れており、今後も継続する。</p>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>4</u>	<u>7</u>	<u>2</u>		<p>いろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>今のところ、受け入れた実績がなく、体制は整っていない。要請があれば、前向きに対応したい。</p>					
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>利用中の方の病状悪化により、看取りとなるケースが増えている。体制を整備して不足のないサービスを提供する。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	2	8	3		地域包括支援センター職員との交流を推進し、積極的に学んで欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員の全員が理解しているといったレベルには達していない。勉強会の必要性を感じている。地域包括支援センターの職員との交流についても検討したい。					
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	4	8	1		地域包括支援センターとして、住み慣れた地域で訪問・訪看を使いながら、在宅での生活を継続して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 今のところ、医療ニーズの高い利用者の優先順位を考慮しており、特定の利用者に偏ることはない。					
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に	3	6	4		地域にも気づきとしてとらえることが出来、互いに成	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	応じて課題提起や改善策の 提案等が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 開かれた事業所として地域に認知して もらえるよう、課題提起や改善策の提案 について積極的に発信する姿勢である。				長するための関係性を望ん でいる。	価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ て得た情報や知見、多様な関係者 とのネットワーク等を活用し、必 要となる保険外サービスやイン フォーマルサービスの開発・活用 等、利用者等のみでなく地域にお ける課題や改善策を関係者に対 して提案していくなどの役割も 期待されます ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対 し、その介護力の引き出し や向上のための具体的な取 組等が行われている	4	8	1	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 「具体的な介助技術の方法を教えて欲しい」という要望は多くの家族から寄せられる。都度、状態に応じて伝えるように心がけている。その際、しっかりと根拠を示しながら説明することで、より納得が得られやすいと感じる。	家族への過度な負担は家庭 崩壊にもつながるリスクをはら んでいる。専門的知識を駆使 して、負担軽減に力を貸して 欲しい。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介 護力の引き出しや向上のための 取組」について、その充足度を評 価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高め ることにより、在宅での療養生活 を支えていくための環境を整え ていくなどの役割も期待されま す ✓ そのような取組をしたことがな

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あまり でき て い な い	全く でき て い な い		
							い場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	早期にすべての利用者 に達成されるよう頑張っ て頂きたい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価 します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	介護に加えて医療面のサ ポートが受けられることは心 強い限りである。看護小規 模多機能に対する期待は大 きい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用 者およびその家族等に対し、サービ スの提供により実現された「医療が 必要な状況下においての、在宅での 療養生活の継続に対する安心感」に ついて、評価します
		1. ほぼ全ての利用者について、達成され		

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>ている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>	<p>これまでの実績が少ないとのことであるが、他の様々な項目も踏まえ、大いに期待している。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>